

快適な環境をめざしての下水道は、普及率80%で、未整備の地域への工事を促進

全市域の“水洗化” 21世紀初頭を目指す

計画が始まりました。
本市でもこの国の計画
にあわせ国の補助金も積
極的に得て事業を進め、
五箇年計画が終る平成7
年度には 現在市街化区
域の住居地域のほぼ全域
で下水道が使えるようにな
り、計画し取組んでいます。
これにより平成7年度

市街化 区 域

七年度完成見込み

平成2年度末の全国市町村の下水道平均普及率は44%であり、人口規模でみると、10万人未満では極めて低く、全国32

00余市町村のうち、まだ約3分の2におよぶところが下水道事業にも着手していないのが実情であります。

そして、市全体として、21世紀初めには全域で下水道が使えるようになれば、水道が使えるように積極的な取組みをしていきます。

年計画に基づく事業費は
およそ37億円。計画
どおり事業が進めば、平
成7年度末時点の投資総
額は171億円にもなる。

する予定です。
ひきつづき、当地域の
主要な管渠の整備を行
国の次期五箇年計画の始
まる平成8年度には面整
備工事に着手する計画を
して い ま す。

事業に着手してから、この15年間に投資した建設費用は1,34億円にものぼります。また、今年度を初年度とする国の第七次五箇年計画の間に実施しようとする本市の五五

整備に巨額の費用 財源を確保し推進

財源を確保し推進

道の整備には巨額の費用が必要です。下水道本管は昭和51年に府の木津川流域下水道開通公連で、本支管では昭和51年に府の木津川流域下水道開通公連です。

00余市町村のうち、まだ約3分の2におよぶところが下水道事業にも着手していないのが実情であります。そして、市全体として、21世紀初めには全域で下水道が使えるようになれば、的な取組みをしていきます。

八幡市公共下水道整備計画図



市内の小学校4年生は毎年浄化センターを見学

同センターは、京都府が木津川流域の4市3町と協力して建設し、昭和61年3月から使用ができます。市内の小学校4年生が対象で、今年も5月に、市内10校1000名の児童が洛南浄化センターを熱心に見学しました。

学校、5月27日八幡小学校、5月28日第3小学校、5月30日第4小学校、6月4日第2小学校、6月11日南山小学校、6月12日橋本小学校で約1000人の児童が同センターを訪れました。

安全で快適な生活環境に欠かせない下水道の普及促進をはかるため、その処理のしくみを子供たちを通して広く市民に知つてもらおうとしています。市内の小学校4年生が対象で、今年も5月に、市内10校1000名の児童が洛南浄化センターを熱心に見学しました。

下水処理の仕組みなどを勉強

小学校4年生になると社会科で地域の様子をいろいろ学習しますが、見学はその一環です。



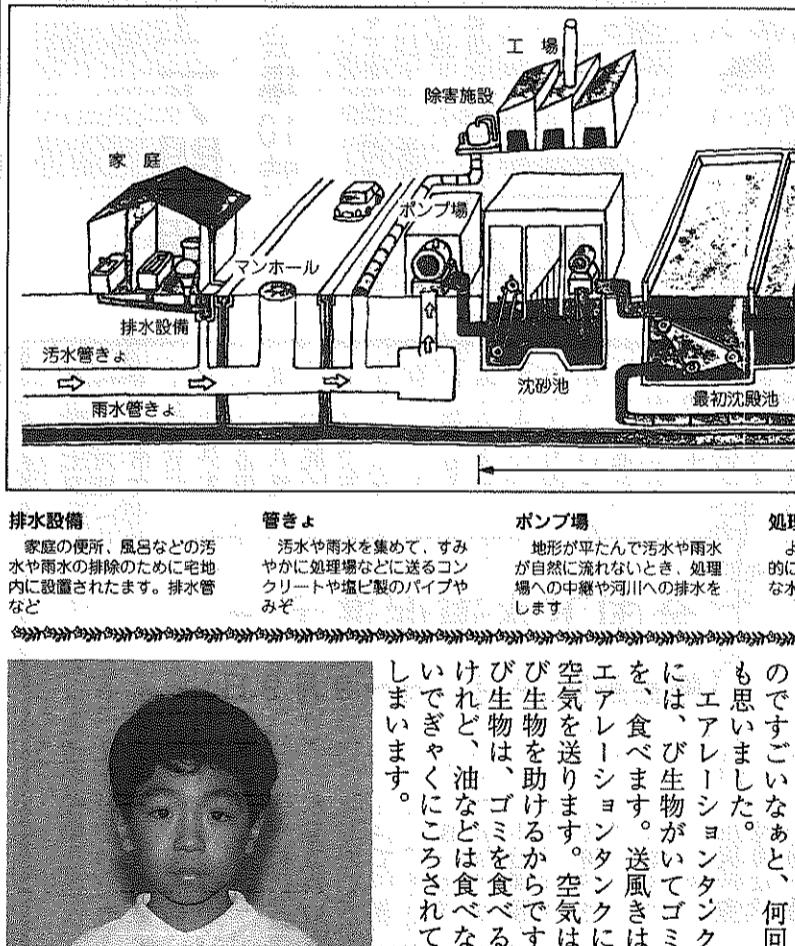
六月五日社会見学で、洛南浄化センターに行きました。洛南浄化センターでは、八幡市・田辺町・井手町・城陽市・宇治市・久御山町・京都市から、下水道を、使ってきれない水をとりよせて、きれいにしてから、宇治川に流します。



浄化センターの処理施設を見学する児童

日々の疑問を熱心に質問

児童たちは、最初沈殿池で、顔をしかめるほど異臭と濁りが強かつた汚水が、エアレーションタンクを通ることによって、最終沈殿池では臭いと濁りがほとんどなくなつてゐるのに驚いてました。見学終了後、児童たちは、「機械が故障したらどうするのですか。」と質問があり、「浄化センターは、24時間そして、一年中休まず稼動し水をきれいにしていなければなりません。そのため故障に対してもう一つ対処できるよう予備機械を設けて、水を常にきれいにしています。」の回答があるなど、児童たちは疑問に思う事を熱心に聞いていました。



「下水処理のしくみ」

下水かんは、ぼくの二ばかりの高さでおじさんは、油・ゴミ(生ゴミ・紙クズ)・ガソリン・オイル・シンナーなどは、流さないでくださいと、言つていました。下水かんは、木とおなじで、えだとみきがあり、えだは細く、みきは太かったです。最初沈殿池では、まだ大きなゴミなどを流さないでくださいと、言つていました。

下水かんは、木とおなじで、えだとみきがあり、えだは細く、みきは太かったです。最初沈殿池では、まだ大きなゴミなどを流さないでくださいと、言つていました。

下水かんは、木とおなじで、えだとみきがあり、えだは細く、みきは太かったです。最初沈殿池では、まだ大きなゴミなどを流さないでくださいと、言つていました。

大事な下水道のはたらき

八幡第一小 島村泰秀

水ケーキにし

て、肥料や建物で消毒してきれいに設備で脱水してから宇治川に流します。しづめたどろは、できるだけ水分をとり脱水します。川や海がきれいになり魚がすめるようになり、きれいで住みよいまちになります。下水道ができると、大雨の時も、雨水がたまり、アレが使えるようになります。それでぼくはすばらしいと思いました。

ぼくは、働いているおじさんに、とてもめいわくをかけているような気がしました。どうしてかと言うと、ぼくたちが手あらい、うがい、おふろ、トイレ、そうじなどで使つたきたくない水を、きれいにしてくれるからです。

この作文は、平成2年度京都府が募集した下水道に関する作文コンクールで、見事に最優秀賞を受けられたものです。

